

令和5年度事業報告書
令和5年9月1日から令和6年8月31日まで

特定非営利活動法人エス・エス・エス

1. 事業の成果

【生活困窮者のための入居施設の開設・運営管理および対象者の生活の安定や自立をサポートする種々の支援事業およびこれらを行う団体・組織・企業等を支援する事業】

<児童自立援助ホームの運営について>

児童福祉法に基づく自立援助ホームを埼玉県内および神奈川県内にて運営しています。自立援助ホームは、義務教育を終了後の15歳から20歳までを対象とし、両親の離婚や死別、虐待など様々な事情により、家庭で生活することができない青少年が、主に働きながら生活を共にし、自立を目指すホームとなります。子どもの貧困や若年者への支援が課題とされる中、これまでのノウハウを生かした次世代の自立支援を行っています。

<行政受託事業について>

これまでの生活困窮者支援を通じて培った経験・ノウハウを生かし、社会貢献の一環として行政からの受託事業にも積極的に取り組み、より公益的な活動にも注力しています。

- ・浦安市ホームレス総合相談推進事業
- ・市川市ホームレスに関わる巡回指導及び自立支援相談事業
- ・銚子市自立相談支援事業 ※令和6年3月終了

【福祉に関する相談援助事業】

生活困窮者自立支援法にもとづく「ちょうしサポートセンター（生活困窮者自立相談支援事業）」を千葉県銚子市より受託し、関係機関や他の社会資源との横断的なネットワークを広げながら生活困窮者を対象とした相談事業を実施しました。

【その他の活動】

生活困窮者に対する支援活動のみにとどまらず、様々な分野の方々と積極的に交流し、情報公開を行っていくことで、広く社会に貢献できる法人を目指しています。

<所属組織>

- ・NPO法人 ホームレス支援全国ネットワーク
- ・一般社団法人 生活困窮者自立支援全国ネットワーク
- ・一般社団法人 全国日常生活支援住居施設協議会
- ・一般社団法人 全国住宅産業協会
- ・全国自立援助ホーム協議会
- ・日本居住福祉学会
- ・社会的企業研究会

【SDGs スマイルプロジェクト】

国連にて地球上の社会的な課題を解決するために「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、全世界で様々な取り組みが進んでいます。「わたしたちに出来ることはないだろうか・・・？」その思いから、2009年（平成21年）に始まったスマイルプロジェクトでは、NGO団体等との連携を通じ、様々なプロジェクトを国内外で実施してきました。

◇プロジェクト1. ホームレス状態の方々への支援

- ・年間約2.5万食の炊出（平成12年～令和2年）
- ・冬じたく無料バザーの実施

◇プロジェクト2. エスエススクール&カレッジ

[飢餓問題への啓発活動]

- ・生きがいづくりを通じて施設利用者が育てたサツマイモを千葉県袖ケ浦市内の保育所の園児に収穫してもらう芋ほりを実施。（平成23年～令和元年）

[貧困問題への啓発活動（見学対応・特別講義等）]

- ・埼玉県立誠和福祉高等学校「貧困を知る」（平成22年）
- ・岐阜県海津市立日新中学校「社会的企業で働くということ」（平成25年）
- ・京都女子大学「生活困窮者支援の最前線」（平成26年）
- ・日本大学「生活困窮者に対するSSSの取り組み」（平成27年）
- ・湘南学園高等学校「貧困問題への取り組み」（平成27年、平成28年）
- ・柏市立田中中学校「キャリア教育講和会」（令和2年）
- ・大阪市立大学「SSSの展開する中間ハウジングについて」（令和2年）
- ・世田谷区立瀬田中学校「福祉の仕事」（令和3年）
- ・湘南学園中学校「貧困問題への取り組み」（令和4年、令和5年）

◇プロジェクト3. 極度の貧困地域への国際支援

[フィリピン共和国]

- ・マสบате島カランパン村の小学校校舎建設と、栄養失調児童を支援対象とした学校給食提供及び保護者への栄養管理指導を実施。（平成22年）
※旧「国連ミレニアム開発目標（MDGs）目標1：極度の貧困と飢餓の撲滅」に該当。
- ・首都圏を襲った台風による洪水被害を受けた地域の再定住プロジェクト支援を実施。（平成24年）
- ・台風30号ハイエン緊急復興支援として、マสบате島カランパン村の住民を含む1,000世帯分の飲料キット代を寄付。（平成26年）

[カンボジア王国]

- ・プノンペンにてストリートチルドレンなどを支援する「愛センター」へ教育ボランティアの派遣。（平成26年）およびインターネット設備（Wi-Fi）を支援。（平成26年～30年）
- ・現地の雇用問題を解決するため、「愛センター」および日本企業「鳥源」と共同でソーシャル製麺所「AIヌードル」を設立し、常駐スタッフを派遣中。立ち上げ支援としては、製麺機の購入費用と日本からの輸送費用を寄付。（1台目平成27年・2台目平成30年）

- ・新型コロナウイルス感染拡大ロックダウンへの緊急支援として、食料・薬・マスクなどの物資を支援（令和3年）
- ・こどもの読書活動の普及啓発を目指し、一般社団法人ソーシャルコンパス制作の「ありがとう絵本」（1,000冊）の印刷発行を支援。また、フリースクールや孤児院等への絵本配布イベントを首都圏・ノンペン等にて開催。（令和4年、令和5年）

◇プロジェクト4. ワクチン支援

ワクチンがないことで予防可能な感染症で命を落としている貧困国の児童を支援するために、飲料のペットボトルのキャップを収集しワクチンに変える取組み。

[合計キャップ数]

- ・約619万個（約14.4t）ポリオワクチンに換算して約7,202人分
- ※平成21年11月から令和6年8月までの約15年間で収集した数となります。

◇プロジェクト5. 災害復興支援

[東日本大震災]

- ・震災により避難所生活を余儀なくされた方々へ、炊出しをはじめとしたボランティア活動。東京都、神奈川県、茨城県の避難所にて実施。（平成23年）
- ・千葉県内にて避難生活を送る児童の方々へ衣類・学習机・文房具等を提供。（平成23年）
- ・陸前高田市へ復興支援ボランティアを派遣。SSSの職員と利用者様より有志を募り、ガレキ撤去ボランティアとして活動。また、法人内部で震災直後から募金運動を行い、災害義援金を同市へ寄付。（平成24年）
- ・継続的な復興支援として、福島県のサッカーチーム「福島ユナイテッドFC」への公式サポートを実施。（平成25年～令和4年）
- ※小学生親子を対象とした「SSSスマイルプロジェクトサッカースクール in 福島」を開催。

[関東・東北豪雨災害]

- ・茨城県常総市へ復興支援ボランティアを派遣。SSSの職員と利用者様有志が個人宅等への清掃ボランティアとして活動。（平成27年）

[熊本地震]

- ・法人内部で地震直後から募金活動を行い、災害義援金を「公益財団法人 共生地域創造財団」を通じて現地で活動を続ける「よか隊ネット」へ寄付。（平成28年）

[北海道胆振東部地震]

- ・「特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター」へ避難所活動費を寄付。（平成30年）

[西日本豪雨災害]

- ・法人内部で募金活動を行い、「日本赤十字社 広島県支部」を通じて災害義援金を寄付。（平成30年）

[令和元年台風15号・19号]

- ・千葉県館山市へ復興支援ボランティアを派遣。SSSの職員が清掃ボランティアとして活動しました。（令和元年）

- ・千葉県君津市へ施設に備蓄していた飲料水等を提供。(令和元年)
- ・法人内部で募金活動を行い、「千葉県災害対策本部」を通じて災害義援金を寄付。(令和元年)

[令和2年7月豪雨災害(熊本県等)]

- ・法人内部で募金活動を行い、「日本赤十字社」を通じて災害義援金を寄付。(令和2年)

[令和6年能登半島地震]

- ・法人内部で募金活動を行い、石川県の公式サイトを通じて災害義援金を寄付。(令和6年)

以上

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
生活困窮者のための入居施設の開設・運営管理および対象者の生活の安定や自立をサポートする種々の支援事業およびこれらを行う団体・組織・企業等を支援する事業	生活困窮者のための入居施設の開設・運営管理および対象者の生活の安定や自立をサポートする種々の支援事業およびこれらを行う団体・組織・企業等を支援する事業	令和5年9月1日～ 令和6年8月31日	東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県 茨城県	56名	6,295名	1,024,179
福祉に関する相談援助事業	福祉に関する相談援助事業	令和5年9月1日～ 令和6年3月31日	千葉県 銚子市	3名	69名	8,814